

(別紙2)

3. 助成対象事業の成果（結果）

【事業名】 企業変革伴走支援事業 A事業(②)

【目的〈課題認識、方向性、目標、事業実施計画等〉】

- ・本事業実施により、付加価値向上の必要性は認識しているが実施できずにいる企業に対し、地域の事業者に影響力を及ぼす「地域の中核企業」へと成長する道筋を明らかにすることで、新たなサービスやビジネスモデルの創出を促進し、魅力ある産業・質の高い雇用の創出を図ることを目的とする
- ・『新事業展開等に伴う変革』を志向する 10 社を選定し、伴走支援で着実な『変革』を実現し、企業の自立したさらなる成長と地域経済の活性化を後押しする。
『変革』を志向する見込み先への情報共有と先進企業との懸け橋となり継続的な地域の発展へつなげる仕組みを構築する。
- ・支援先10先以上に対し、支援計画書（5ヶ年）を策定し、個社別の支援を実施することで立案した初年度計画の目標達成ならびに支援企業からの満足度80%以上を達成する。

※事業内容については「別紙 事業計画書 参照」

【実施事業の内容・実績】

2024年 5月20日：令和6年度募集開始（プラザHPにて告知）

- 〃 年 9月25日：令和6年度選定委員会開催9社を支援対象先として採択
- 〃 年 6月14日：企業変革伴走支援キックオフセミナーin草津開催
- 〃 年11月 8日：第1回テーマ別連携&セミナー
- 〃 年12月 6日：第2回テーマ別連携&セミナー
- 〃 年12月13日：第2回テーマ別連携&セミナー

2025年 1月24日：第3回テーマ別連携&セミナー

- 〃 年 2月13日：企業変革伴走支援推進セミナーin草津開催

※実施内容については「別紙 資料1 参照」

実施した結果生まれた新たな課題等

企業の課題認識は「顕在的」なものであり短期的な解決が急務である。企業の自立とさらなる成長を目指すには「潜在的」な長期課題を設定し後押しする伴走支援が必要である。具体的には、ヒアリング時点で企業の「新たな気づき」の機会を提供し、相互共有した支援体制で取り組むこと。そのなかでも経営基盤である組織力の強化が自立に向けた優先課題と認識した。

企業の自立化・成長に向かったの伴走支援は、課題解決型（顕在的な短期課題）と課題設定型（潜在的な長期課題）の両輪での伴走支援が必要であると認識した。

【評価〈目標の達成度〉、数値の検証等】

企業目標：5ヶ年計画と初年度目標を作成⇒初年度実績を5項目で達成度を確認 (資料2)

事業目標：フォロー訪問等含む相談件数目標50件⇒相談、訪問で88件 (176%) (資料3)

評価基準書の達成80%が8/10社を設定⇒初年度実績9/10社 (89%) (資料4)

顧客満足度の目標設定 (80%) ⇒初年度実績8/9社 (89%)

※検証結果は「別紙 資料2-4 参照」

【分析（実施した結果新たに生じた課題、数値の検証等）】※計画より進捗が遅れている場合は、その理由も記載してください。

- ・ 伴走支援：企業目標目標10社に対して9社参加。
事業の周知活動と同時募集のために、企業側は受入れ体制ができず初年度は断念。ただし次年度の候補対象企業は5社あり。企業の課題状況が把握できた。
- ・ 連携支援：目標10回×4テーマに対して4回×2テーマ実施
伴走支援活動の遅れにより「連携テーマ設定」が遅れた。
- ・ 事業分析：企業の自立に向けては、単年度支援だけではなく複数年度支援が必要である。ただし今年度の事業では5ヶ年計画の初年度がほぼ達成でき、さらに経営責任者の「新たな気づき」を持っていた。今後は如何にステップアップさせていくかが課題。
又遅れの理由は事業開始の遅れでコーディネーター2名の採用が遅れたため（4ヶ月・人）で、事業の早期活動準備が必要であった。

【今後の進め方（波及効果を含めて）をどうするのか】

波及効果を最大化するために、対象を製造業から全業種に拡大し、さらに新規企業だけでなくNT卒業企業にも参加いただき相乗効果を発揮できる事業を目指す。
「企業変革」を目指す新規企業の伴走支援と「地域の中核企業」を目指す卒業企業への支援を行うと共に、新規・卒業企業との連携体で「継続的な成長」を目指す仕組みを仕掛けによって、地域経済を牽引し活性化する中小企業の創出を（育成）加速させたい

注1）上記項目について詳細に記載してください。

注2）成果（結果）の内容について、別途、お問い合わせすることがあります。

注3）成果物（報告書・アンケート集計物・DVD等）、記録用写真等があれば提出してください。